



稲作情報 第2号

(育苗)

令和8年3月25日～

令和8年4月21日

JA夢みなみ(すかがわ岩瀬地区・あぶくま石川地区)、県中農林事務所須賀川農業普及所

1 気象庁発表 東北地方発表 1か月予報 (3月21日～4月20日までの天候見通し)

天候予報(3月19日発表1か月予報)によると、向こう1ヶ月の気温は高い見込みです。降水量は平年並か多い見込みで、日照時間は平年並か少ない見込みです。

2 育苗

○表1を参考にして、各生育ステージの温度管理を徹底しましょう。

○高温、過湿、強風、夜間の低温は生育不良や病害の発生を助長することになるため、注意しましょう。

○緑化期以降のかん水は、**原則、朝に1日1回**です。追加のかん水が必要な場合は昼頃に行い、

夕方のかん水は根張りが悪くなるため、注意が必要です。

○プール育苗の場合、表2を参考にしてください。

表1 育苗期間の生育ステージと目標温度の目安

生育ステージ	日中(°C)	夜間(°C)	備考
第1葉展開まで(緑化期)	25	10～15	白化苗になる恐れがあるため、強光を避けます。
第1葉展開後から硬化期	20	10～15	

表2 プール育苗

生育ステージ	水管理	温度管理
1回目の入水まで	・慣行と同様	・慣行と同様
1回目の入水(1.5葉期)	・培土表面より下の高さまで入水します(苗の水没に注意)。 ・苗が大きくなったら、培土が覆われる水深とします。	・入水を始めたら、原則として昼夜ともサイドビニールを開放し管理します。 ・ハウス内でプール育苗すると、水温が下がらず、慣行と比較して徒長しやすいため、慣行より温度を低めに管理します。
2回目以降の入水(プールに水が無くなる部分が出始めた頃)	・培土の高さと同じ程度までとします。	・霜・低温注意報がでている場合、サイドビニールを閉める等保温に努めます。

3 育苗期の病害対策～病気を発生させないように温度管理を徹底しましょう～

(1) もみ枯細菌病

○**28°C以上の高温**で発生しやすく、苗が坪状に枯れ、葉を引っ張ると簡単に抜けます(図1)。

○対策は、温度管理(28°C以下)の徹底です。発病後に対処できる農薬はありません。

○罹病した苗箱は健全な苗への感染を防止するため、直ちに廃棄してください。

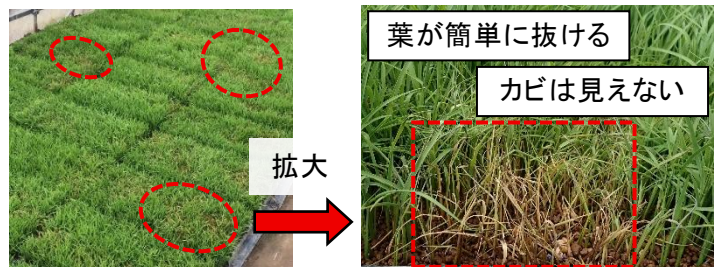


図1 もみ枯細菌病による坪枯れ(左)と拡大写真(右)

(2) ムレ苗

○**5°C以下の低温**とピシウム属菌が原因で発生し、根の活力が弱まり、水分吸収ができないため、葉が巻き、症状が進行するとやがて枯死します。

○対策は、夜温が5°C以下にならないための温度管理と事前予防の薬剤防除(ナエファインフロアブル等)となります。

○症状の軽微な場合は、移植時期を早めてください。

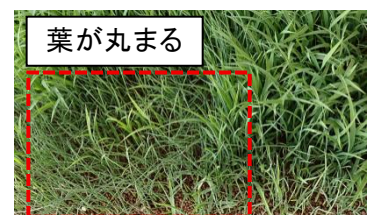


図2 ムレ苗の症状

(3) 苗立枯病

- 対策は原則、**事前予防の薬剤防除を基本**としています(詳細は第1号を参照)。
- 播種後に苗立枯病が発生した場合は(図3)、使用時期に注意しながら、表3を参考に薬剤防除を行ってください。
- 発生が著しい苗箱は欠株の原因となるため、使用を控え処分してください。

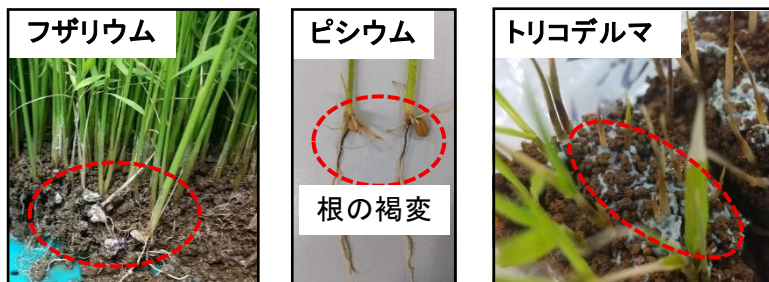


図3 苗立枯病の症状
写真提供: 福島県農業総合センター作物保護科

表3 播種後に苗立枯病が発生した場合に使用できる農薬(播種時に使用できる農薬は稲作情報1号を参照)

病原菌	主な症状	多発条件	ナエファインフロアブル ¹⁾	ダコニール1000 ²⁾	ダコレート水和剤 ²⁾	タチガレエースM液剤 ³⁾
リゾープス	白いカビ(覆土表面)	出芽期の高温		○	○	
フザリウム	白やピンクのカビ(地際や糞)	緑化期の高温			○	○
ピシウム	カビは見えない。ドーナツ状の枯れ	緑化期以降の低温	○			○
トリコデルマ	緑のカビ(覆土表面、種籾周囲)	高温、多湿培土 pHが低い			○	

1) 播種時～緑化期 2) 播種時～緑化期(但し、播種14日後まで) 3) 播種時又は発芽後

4 雑草イネ対策

- 図4のような特徴が見られた場合、雑草イネが疑われます。
- 雑草イネが収穫物に混ざると品質の低下につながります。
- 除草剤散布のみの防除では不十分です。
遅植え、丁寧な代かき、除草剤散布による防除を組み合わせた総合防除が重要になります(表4、5)。
- 直播栽培の場合、移植栽培への切替が必要です。



図4 雑草イネの特徴
草丈が長い、赤のふ先色、赤米、脱粒

表4 雑草イネの対策

対策	留意事項
5月中旬以降の遅植え	福島県における雑草イネの出芽盛期は5月中旬～下旬のため、植代前に多くの雑草イネを出芽させ、植代時にすき込みます。
丁寧な代かき	必ず荒代と植代の2回行います。荒代と植代の間隔は1週間程度が目安です。植代を丁寧にいきます(長辺方向、短辺方向、長辺方向の3工程)。
3剤体系による除草剤散布	1剤目は、植代から期間を空けずに散布できるよう、田植えのタイミングに合わせた初期剤を選びましょう。2剤目(初期剤または初中期一発剤)と3剤目(初中期一発剤または中期剤)の散布は前回散布した7～10日後に確実に実施しましょう。

表5 雑草イネに有効な除草剤(移植水稻)

	除草剤	雑草イネに有効な成分
初期剤	デルカット乳剤	ブタクロール
初期剤	ソルネット1キロ粒剤	プレチラクロール
初中期一発剤	アカツキフロアブル	フェノキサスルホン
中期剤	ザーベックス DX1 キロ粒剤	ベンフレセート

福島県雑草イネ
総合防除マニュアル



より詳しく雑草イネ対策を知りたい方へ

県中農林事務所須賀川農業普及所
電話(0248)-75-2180

ご不明の点は、JA夢みなみ、須賀川農業普及所にお問い合わせください
次回の発行予定日は令和8年4月22日(水)です。

本資料は、3月24日時点の農薬登録情報を基に作成しています。農薬使用の際は、最新情報を確認願います。